

横浜市方式での天空率チェック方法

取扱 2 2つの道路の場合 (1)

取扱 3 2つの道路の場合 (2)

取扱 4 2つの道路の場合 (3)

取扱 8 屈曲道路の場合 (120度以下)

下図のような、2方向以上の道路に接し、道路の折角が120度以内の場合、TP-PLANNERで必要な処理は、

○JCBO方式

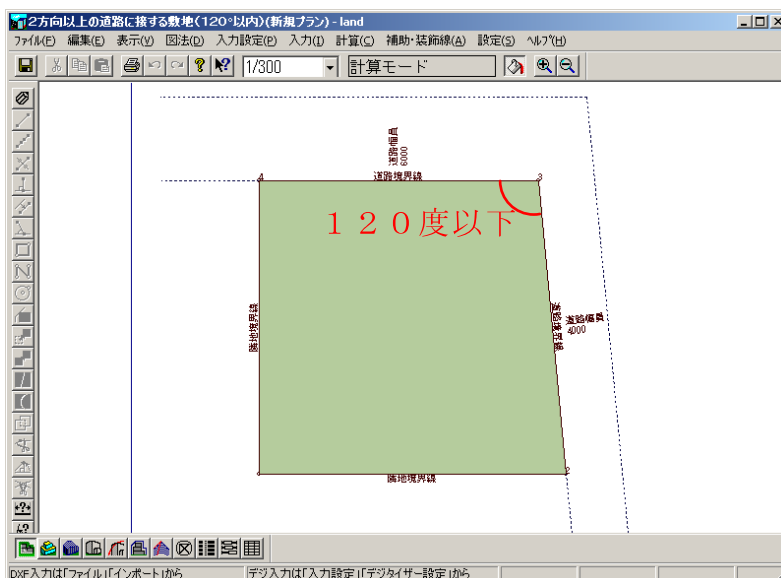
○天空率算定領域での、『自動発生方式詳細』の設定を変更

○算定線を修正

の3点です。

では、実際にどのように入力・設定を行なうのか、を説明します。

以下の処理は、すべてTP-SKYで行います。あらかじめ、真北、敷地、用途地域、建物などをTP-LANDで入力しておいてください。



① 『天空率算定領域』の『自動発生方式詳細』ボタンを押します。

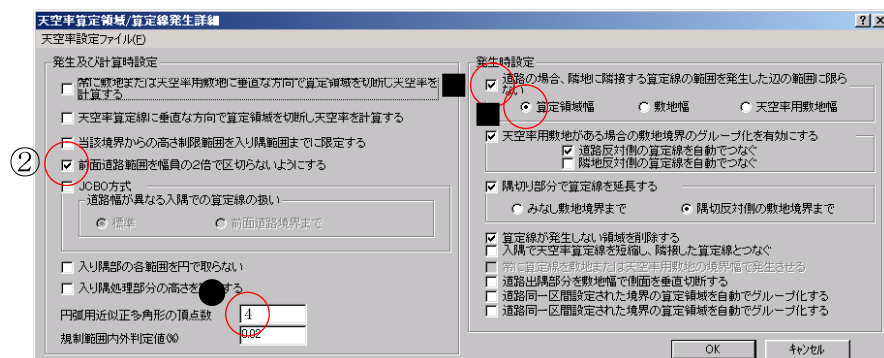
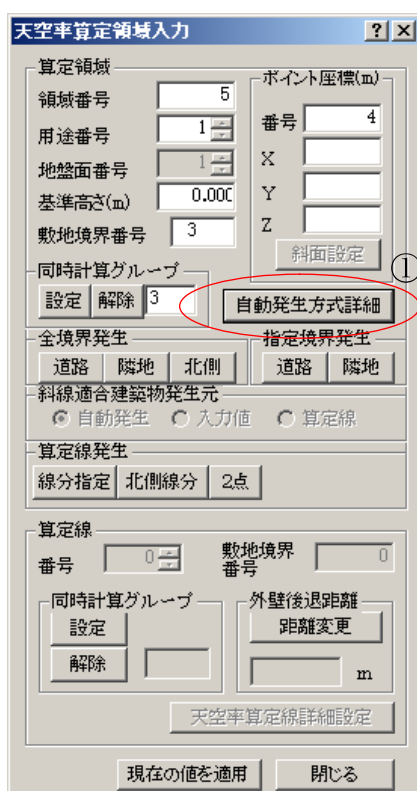
② 『前面道路範囲を幅員の2倍で区切らないようにする』のチェックボックス☑をONにします。

このオプションをチェックすることにより、広い道路の適用距離内での狭い道路の中心から10mの範囲内の領域を、独立した天空率算定領域として発生させます。(③参照)

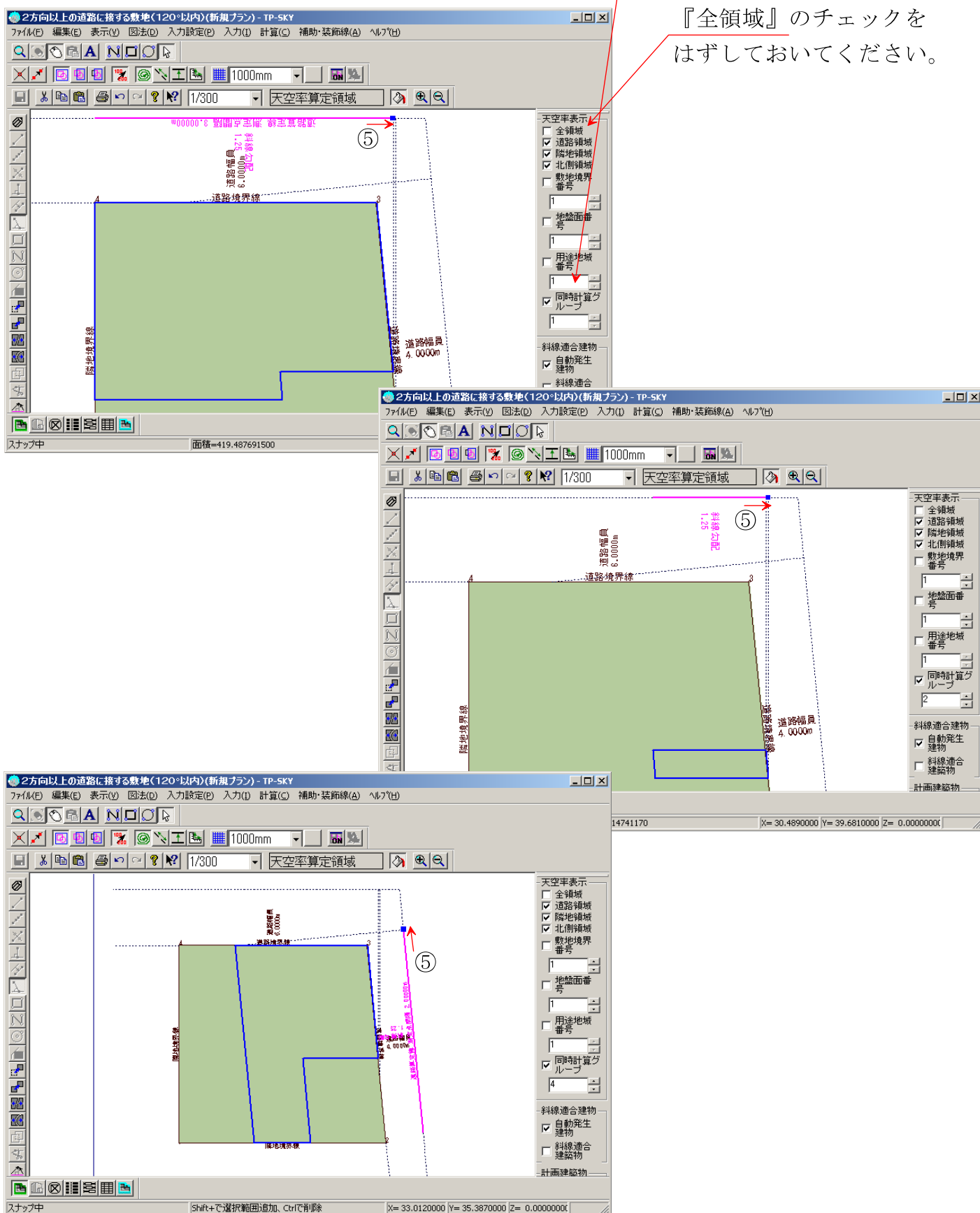
●『円弧用近似正多角形の頂点数』を“4”にします。

“4”とすることで、回り込みを円弧で処理しなくなります。

■併せて、『発生時設定』も『算定領域幅』を設定します。



- ⑤ 道路の反対側に対する垂線を線を引き終えたら、『補助・装飾線』モードを終了し、天空率算定線をマウスでドラッグして対応する天空率算定領域の最外郭に合わせて長さを調整します。天空率算定線が重なって操作しづらいときは『同時計算グループ』で表示を切り替えながら操作してください。



⑥ 通常どおり天空率の計算を行います。

以下に計算結果を示します。

